

第34回

保育まつり

K-2★kappaのお父さんたち

スポーツチャンバラ選手権

ゴメンジャーショー

撮影会の様子

争奪! K-2★kappa

屋台村の様子

モチ投げ

伊勢えび汁

志和ふるさとまつり

12月3日、志和漁港周辺で志和ふるさとまつりが開催されました。

この祭りは、志和地区の新鮮な魚介類や農産物を味わっていただき、地域の活性化につなげようと、毎年行われています。

今回は、開催日に複数のイベントが重なり、来場者の心配がされましたが、人気の伊勢えび汁には朝早くから長蛇の列ができ、約600食分が完売。お寿司や炊き込みごはん、農産物なども次々と売れていきました。また、浜辺では、新鮮な魚介類のバーベキューを楽しむ家族連れなどでにぎわいました。

この日は好天に恵まれ、波も穏やかであったため、志和港周辺のクルージングを楽しむ方やすっかりおなじみとなった、お楽しみくじ入り餅投げなど、志和ならではの祭りは、大盛況となりました。

12月3日、窪川地域7つの保育所の保護者でつくる四万十町保育所保護者会連合会による保育まつりが窪川 B&G 海洋センターで開催されました。この日は天候にも恵まれ、園児とその家族およそ600人が来場。臨時駐車場は全て満車となり、飲食ブースも11時30分には完売しました。

体育館ではスイーツや雑貨、アクセサリ、ビーズでネックレスやブレスレットを作るワークショップが四万十手仕事市から出店。くじ引きのブースもあり

イベントの合間にも楽しめる工夫がされていました。「0歳からの音楽コンサート」は高知放送アナウンサーの井上琢巳さんらが出演し、歌や踊りで赤ちゃんから楽しめるコンサートで会場を魅了。その後、南国市後免町のご当地ヒーロー「ごめん戦隊ゴメンジャー」のバンド演奏やショーの後、どちらも撮影会に多くの行列ができ大人気でした。

ステージショーの後は「スポーツチャンバラ選手権」、ヒーローやバニーガールに扮したお父さんとの鬼ごっこ「争奪! K-2★Kappa」で盛り上がった後は、運を天にまかせた「お楽しみ抽選会」で番号がコールされるたびに大興奮。注目の特賞の番号発表の後、閉会宣言で今年「大人も子どもも楽しもう」というコンセプトで企画された盛りだくさんのイベントが盛況のうちに終了しました。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
町民の皆さまにおかれましては、平成30年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
日頃から、四万十町議会に対し温かいご理解とご指導、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。
昨年度をかえりみると、社会経済状況は、情報化、国際化、少子高齢化が経験したことがない早さで進行しており、四万十町においても克服すべき多くの課題を抱え、複雑多様化しております。このような中で、議会としても、各常任委員会を中心に地域に足を運び、町民の皆さまのご意見を集約し、政策提言を行い、その実現を目指して取り組んでまいります。
更なるご指導とご支援をお願い申し上げます。
新しい年が町民の皆さまにとって明るく希望のもてる年であり、ますとともに、ご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。
平成三十年 元旦

四万十町議会議長

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
皆さまには、清々しく新春をお迎えのこと、心からお慶びを申し上げます。
今年の干支は、戌となつておりますが、酉年から戌年の移り変わりは、日本の季節の移り変わりで、秋から冬の移り変わりの様子とも言われております。翌年に息吹かためる生命力が蓄えられると言われている年であると同時に、犬は一度にたくさんの子を産み、しかも安産だと言われていることから、生命力豊かな意味を持つ年でもあります。
今年は一層、町の将来を担う多くの子どもたちがこの町に生まれ、そして健やかに育つことを願うものでございます。
町民の皆さまには、この戌年にあやかり、しっかりと充実した仕事や事業、生活が送られることをご祈念申し上げますとともに、幸せ豊かな一年を過ごされますよう願うものでございます。
四万十町は、あちこちにまちづくりの取り組みも芽生えつつありますので、引き続き活力あるまちづくりを力強く推進してまいります。町民の皆さまの温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。
本年も皆さまにとりまして、幸多き年となりますようご祈念申し上げます。
平成三十年 元旦

四万十町長



今月の



まずは一歩踏み出して
チャレンジしてみよう!



▲生徒たちと「ともにやってみる」を
実践する岩垂さん

今月も公営塾「じゆうく」のスタッフをご紹介します。岩垂さんは東京都国立市出身の現役大学生です。
都立高校を卒業後、武蔵大学経営学部へ。「じゆうく」へは休学しての参加です。実家がクリーニング店を経営されていて、岩垂さんもうずれ家業を継ぎたいという思いもあって、経営学部に進みました。経営学の中でも、特に人材育成や組織運営といった分野に興味

があった岩垂さん。大学で学びながら「実際の人材育成の現場、できれば教育の現場で、実践的に学びたい」という思いに駆られていました。そんな時に、あるベンチャー企業のサイトで、四万十町が公営塾を立ち上げるということを知ったのでした。
直感で「これだ!」と思い、即応募。ゼミの先生も賛成してくれて、2016年10月に、四万十町にやってきました。
岩垂さんは、「じゆうく」の生徒たちと関わる中で、自身の中に新しい発見がたくさんあると言います。最も大きなことは、できなかったことができるようになるために生徒たちをサポートしていくことが、自分は好きだし、自分に向いているのだということへの気づき。

人材育成や教育といった分野に興味があったものの、果たして自分はそれに向いているのか、それが好きなのか、正直なところ明確でなかったところがあつたけれど、ここに来て、実践してみても明確になったのだそうです。やってみることで、自分が変わっていく、新しい自分と出会う。知らなかった自分と出会う。その大切さを感じて、岩垂さん。
教室に貼られているスタッフ紹介の中の岩垂さんから生徒たちへのメッセージには「まずは一歩踏み出してチャレンジしてみよう! チャレンジすること、自分の知らなかった新たな自分に出会うかもしれない。僕も、この「じゆうく」でチャレンジしていきます。そして新たな自分を見つけていきます」とあります。



いわだれ けい ち
岩垂 桂也さん
(金上野)